

ツキノワグマの冬眠前行動の特徴とその開始要因の検討

小池伸介（東京農工大）・岩崎正（東京農工大）・山崎晃司（東京農大）・小坂井千夏
（中央農研）・稲垣亜希乃（東京農工大）

キーワード：ツキノワグマ、冬眠、GPS 受信機

はじめに

クマ類が冬眠を開始する前には、活動量の低下や行動パターンの変化が知られ、冬眠前行動とも呼ばれる。しかし、既存研究の多くでは、VHF によるラジオテレメトリーによってクマの行動を追跡した研究であり、行動の詳細や、活動量と行動の関係について検討した事例はほとんどない。本研究では GPS 受信機を装着したクマ類の移動データから、クマの越冬場所への移動と冬眠前の活動量との関係を検討し、冬眠前行動の特徴を明らかにすることを目的とした。

方法

足尾・日光山地において、ツキノワグマに活動量センサー付き GPS 首輪を装着、位置情報を測位し、9 月から冬眠開始するまでの期間の 1 日あたりの総移動距離を算出した。また、1 日の総移動距離の中で、特異的に大きい移動（以下、大移動）を行う日を統計的に求めた。さらに、「大移動」が確認された日以降において、冬眠場所とクマの測位地点との距離が連続して減少し、冬眠場所から半径 500m 以内に入った場合の「大移動」を行った日を、冬眠前行動開始日とした。さらに、冬眠前行動開始日以降の 1 日あたりの活動量と 1 日の総移動距離との比較を行った。

結果および考察

21 個体分の行動データの解析を行ったところ、18 個体（85.7%）は冬眠開始の平均 4.4 ± 1.6 日前に、「大移動」が観察された。また、これらの個体の中で活動量が計測されている個体の 1 日のあたりの活動量をみると、全ての個体が活動量の減少直後に冬眠前行動を開始していた。以上から、このような「大移動」は、冬眠前の活動量の低下とともに、冬眠前の特異的な行動といえる。一方、今回の結果において「大移動」が確認されない個体も存在した。これらの個体は、いずれも冬眠開始の約 5 日前には冬眠場所への移動を行っていたが、特異的な「大移動」は示していないため今回の定義には当てはまらなかった。しかしながら、冬眠開始の約 5 日前にはいずれのクマも冬眠場所周辺には移動していることから、これらの行動は一連の冬眠行動の開始時点である可能性がある。